

2020 年度（令和 2 年度）

シラバス

柔道整復学科 昼間部

履正社医療スポーツ専門学校

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	体育 I <基礎>			講師名	賀屋 光晴	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	前期	分野	基礎分野	
講義目的	柔道実技を通じて、自らの心身のすこやかな成長をねらうと共に、身体の仕組みを学び、理解させる。					
到達目標	礼儀・礼節の習得と基礎運動、柔道実技での受身動作を習得する。背負投などの技をクラスメイトと共に修得することで、柔道の楽しさを理解する。					
回数	講義計画					
第1回	柔道について(オリエンテーション、ビデオ鑑賞)					
第2回	基礎運動(姿勢、組み方、歩き方)					
第3回	基礎運動(崩し、体さばき、受身等)					
第4回	受身(前・後・横受身等)					
第5回	受身(横受身、前廻り受身)と投げ技練習					
第6回	受身と投げ技(大腰)					
第7回	受身と投げ技(大腰、背負い投げ)					
第8回	受身と投げ技(背負い投げ)と投げの形(9種類)説明					
第9回	受身と投げ技(背負い投げ、一本背負い)と投げ技の形説明					
第10回	受身と投げ技(一本背負い右)と投の形(浮落右)					
第11回	受身と投げ技(一本背負い左)と投の形(浮落左)					
第12回	受身と投げ技(一本背負い、大外刈り)と投げの形(背負投)					
第13回	受身と投げ技(大内刈り、大外刈り)投げの形(背負投)					
第14回	受身と投げ技(一本背負い、大内刈り、大外刈り)と投げ技(背負投)					
第15回	受身と投げ技(大腰、一本背負い、大外刈り)と投の形(浮落、背負投)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	昇段審査のための柔道の形入門(大泉書店)					
参考文献						
評価基準	実技試験にて評価					
履修上の注意	出席率80%以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	体育Ⅱ<標準>			講師名	賀屋 光晴	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	後期	分野	基礎分野	
講義目的	柔道実技を通じて、自らの心身のすこやかな成長をねらうと共に、身体の仕組みを学び、理解させる。					
到達目標	礼儀・礼節の習得と基礎運動、柔道実技での受身動作を習得する。背負投などの技をクラスメイトと共に修得することで、柔道の楽しさを理解する。					
回数	講義計画					
第1回	基礎運動、寝技練習(袈裟固、横四方固)					
第2回	基礎運動、寝技練習(上四方固、縦四方固)					
第3回	投げ技(大腰、一本背負い)					
第4回	投げ技(背負投、大外刈り)					
第5回	投げ技(払腰、大内刈り)					
第6回	連続技の説明(立ち技⇒立ち技)					
第7回	連続技の説明(立ち技⇒立ち技)					
第8回	連続技の説明(立ち技⇒立ち技)					
第9回	連続技の説明(立ち技⇒寝技)					
第10回	連続技の説明(立ち技⇒寝技)					
第11回	約束(乱取り)稽古の方法と組みあい方					
第12回	約束(乱取り)稽古と投げの形①					
第13回	約束(乱取り)稽古の投げの形②					
第14回	投げ技の復習と投げの形					
第15回	総合練習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	昇段審査のための柔道の形入門(大泉書店)					
参考文献						
評価基準	実技試験にて評価					
履修上の注意	出席率80%以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	2 単位
科目名	基礎演習C		講師名	田中雅博・福田学	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義・演習	学期	後期	分野	基礎分野
講義目的	医療介護健康福祉関連などが実践及び研究発表されている現場を学習フィールドとして、座学で学んだ理論を検証、研究する能力と、集団組織の中での自らの活躍の仕方を身につける。				
到達目標	知的好奇心を高揚させ、研究心を身につける。チームアプローチ・チームビルディングを理解し、実践できる。				
回数	講義計画				
第1回	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク				
第2回	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク				
第3回	学習・発表計画作成(個人・グループ)				
第4回	集団活動と組織協同、チームアプローチとチームビルディング(文化祭)				
第5回	集団活動と組織協同、チームアプローチとチームビルディング(文化祭)				
第6回	公益社団法人大阪府柔道整復師会学術大会の基調講演聴講				
第7回	公益社団法人大阪府柔道整復師会学術大会の会員発表聴講				
第8回	医学知識を深める聴講と見学(行政解剖)				
第9回	医療介護健康福祉に関する講義を聴講(学術大会特別講演)				
第10回	卒業研究発表の聴講(校内学術大会)				
第11回	個人・グループ発表				
第12回	他学科チームアプローチとビルディング(体育祭)				
第13回	公益社団法人日本柔道整復師会近畿学会の基調講演聴講				
第14回	公益社団法人日本柔道整復師会近畿学会の会員・学生発表聴講				
第15回	市民講座や大学医科教育等の聴講と実習、医科学生生活動の模擬体験				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	オリエンテーション時に配布				
参考文献	オリエンテーション時に配布				
評価基準	履修研究記録簿の作成評価(70%)、プレゼンテーション(10%)、ディスカッション(10%)、レポート(10%)で評価する。				
履修上の注意	授業時間以外の履修記録簿の作成研究やプレゼンテーションの予習復習の実践を前提に評価を行う。				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	応用解剖学 I		講師名 実務経験	秋山 文宏	
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	運動に関わる人体構造と機能を再認識し、身体の基礎である解剖学を中心に知識を習熟する。				
到達目標	解剖学の知識をいかして、運動指導や治療に繋げることができる				
回数	講義計画				
第1回	運動器系(脊柱)				
第2回	運動器系(上肢帯、上肢の骨)				
第3回	運動器系(下肢帯、下肢の骨)				
第4回	運動器系(頭頸部、体幹)				
第5回	運動器系(上肢帯、上肢の筋肉)				
第6回	運動器系(上肢帯、上肢の筋肉)				
第7回	運動器系(下肢帯、下肢の筋肉)				
第8回	運動器系(下肢帯、下肢の筋肉)				
第9回	運動器系(関節の構造と機能)				
第10回	運動器系(関節の構造と機能)				
第11回	脈管系(心臓)				
第12回	脈管系(動脈)				
第13回	脈管系(静脈、胎児循環、リンパ管)				
第14回	消化器系(口腔～大腸)				
第15回	消化器系(肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	応用解剖学Ⅱ		講師名	秋山 文宏	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	運動に関わる人体構造と機能を再認識し、身体の基礎である解剖学を中心に知識を習熟する。				
到達目標	解剖学の知識をいかして、運動指導や治療に繋げることができる				
回数	講義計画				
第1回	呼吸器系(副鼻腔、肺)				
第2回	泌尿器系(腎臓)				
第3回	泌尿器系(尿管、膀胱、尿道)				
第4回	生殖器系(男性生殖器)				
第5回	生殖器系(女性生殖器)				
第6回	内分泌系(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体)				
第7回	内分泌系(副腎、膵臓、精巣、卵巣)				
第8回	感覚器(視覚、聴覚)				
第9回	感覚器(味覚、触圧覚、平衡覚)				
第10回	神経系(総論、大脳)				
第11回	神経系(脊髄、伝導路)				
第12回	神経系(脳神経Ⅰ～Ⅵ)				
第13回	神経系(脳神経Ⅶ～Ⅻ)				
第14回	神経系(脊髄神経)				
第15回	神経系(脊髄神経)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復術の適応論			講師名	藤原 俊介	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	適切な柔道整復術を行うための柔道整復が適応か否かの判断力を養う					
到達目標	柔道整復術の適否を理解し、適応外疾患について説明できる					
回数	講義計画					
第1回	柔道整復術の適否					
第2回	外傷初療学					
第3回	見逃してはいけない疾患① 内臓疾患の投影を伴う痛み					
第4回	見逃してはいけない疾患② 可能性炎症、血流障害、神経損傷を伴う損傷					
第5回	見逃してはいけない疾患③ 病的骨折、脱臼、外出血を伴う損傷					
第6回	見逃してはいけない疾患④ 骨代謝疾患、膠原病					
第7回	頭部、顔面の外傷に対するマネジメント					
第8回	胸背部の外傷に対するマネジメント					
第9回	腰部、股関節の外傷に対するマネジメント					
第10回	頸部、肩関節の外傷に対するマネジメント					
第11回	上腕、肘、前腕、手指の外傷に対するマネジメント					
第12回	下肢(膝足関節)の外傷に対するマネジメント					
第13回	内臓損傷の合併、脊椎損傷が疑われる損傷					
第14回	医療コミュニケーション					
第15回	まとめ					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	医療の中の柔道整復(南江堂)					
参考文献	柔道整復師のための医療安全(南江堂)、標準整形外科学(医学書院)					
評価基準	講義出席と期末テストにて評価					
履修上の注意	テキストとは一部重複しない内容もあるため復習をしっかりと行うこと					
備考	配布物がある場合は原則として講義中のみにしか配布しない					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ		講師名 実務経験	竹内 希美子	
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	医療従事者となるべく、医療の仕組みや国の衛生統計などを学び、衛生学・公衆衛生学Ⅰで学んだ内容をより深く考え、理解する				
到達目標	医療のシステムを学び、健康や衛生環境について知識を積み、日常生活や医療現場で役立つ知識を身につける。				
回数	講義計画				
第1回	健康の定義、衛生統計				
第2回	疾病予防と健康管理				
第3回	感染症の予防				
第4回	消毒法				
第5回	環境衛生				
第6回	生活環境・食品衛生活動				
第7回	母子保健				
第8回	学校保健				
第9回	産業保健				
第10回	成人・高齢者保健				
第11回	精神保健				
第12回	地域保健と国際保健				
第13回	衛生行政と保健医療制度				
第14回	医療倫理と安全確保				
第15回	疫学				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版(南江堂)				
参考文献	わが国の人口動態 平成28年度版(厚生労働省大臣官房統計情報部)				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	職業倫理 I		講師名	田中 雅博	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	柔道整復師の業務における療養費の構造を正確に理解し、請求に関する具体的な処理や手続きが遂行できる能力を身につける。				
到達目標	療養費の請求に関わる一連の処理、手続きが実践できる。				
回数	講義計画				
第1回	制度の概要				
第2回	療養費の歴史				
第3回	療養費の推移				
第4回	療養費の算定と手続き(前編)				
第5回	療養費の算定と手続き(後編)				
第6回	施術録の記載と支給申請書作成				
第7回	ケーススタディー(基礎)				
第8回	ケーススタディー(応用)				
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
第16回					
テキスト	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理／医歯薬出版株式会社				
参考文献					
評価基準	筆記試験(50点)、授業貢献度(20点)、プレゼンテーション(30点)				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	職業倫理Ⅱ		講師名	田中 雅博	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	医療を特別な産業ととらえ、そこに従事する人間の正しい倫理観念を理解する				
到達目標	患者をとりまく医療のあらゆるシーンで人権に配慮し、正しい対人対応ができる				
回数	講義計画				
第1回	職業倫理のとらえ方				
第2回	生命倫理と今日の課題と問題点				
第3回	インフォームドコンセントとアセント				
第4回	守秘義務と個人情報の取り扱い				
第5回	契約の種類と履行				
第6回	広告と期待値、履行義務				
第7回	患者へのハラスメントと言動				
第8回	患者もしくは家族からのハラスメントと対応				
第9回	問題事例の患者の対応				
第10回	施術における社会的責任と限界				
第11回	SNSの取り扱いと情報発信				
第12回	グループディスカッション(前編)				
第13回	グループディスカッション(後編)				
第14回	ケーススタディー(基礎)				
第15回	ケーススタディー(応用)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理／医歯薬出版株式会社				
参考文献					
評価基準	筆記試験(50点)、授業貢献度(20点)、プレゼンテーション(30点)				
履修上の注意					
備考					

授業科目名	関係法規 1	単位数	1
講師名	田中雅博	配当学年	3年前期
オフィスワ・場所	講義終了後、職員室にて	授業形態	講義、演習
講義目的・到達目標	<p><講義目的> 法制定の目的と諸外国との比較、柔道整復師の業務に関わる法律の存在、訴訟に関わるリスクマネジメント、医療事故、医療訴訟の判例などを理解する</p> <p><到達目標> 人権、医療に関わる法律の存在を理解する。医療安全患者安全が実行できる基本的スキルを身につける 訴訟の判例を理解し、事故防止不正防止の対策を講じることができる。</p>		
講義内容・授業計画	<p><講義内容> 制定や概論などの講義を行い、ケーススタディをもとに各班に分かれて個人W、GWを行い、プレゼンテーション及びGW演習まとめの課題提出をさせる。</p> <p><授業計画></p> <p>第1回 講義計画、オリエンテーション</p> <p>第2回 法の制定、経過及び道徳と実践法律の例示</p> <p>第3回 基本的人権の重要性</p> <p>第4回 医療倫理と医療安全、患者安全の理解と徹底</p> <p>第5回 過去の判例紹介、演習</p> <p>第6回 医療事故、訴訟例、演習</p> <p>第7回 医療紛争、リスクマネジメント</p> <p>第8回 ケーススタディー1、演習</p> <p>第9回 ケーススタディー2、演習</p> <p>第10回 介護保険法、平成30年医療介護融合政策、同時改定とこれからの社会保障制度</p> <p>第11回 免許と業務、施術所</p> <p>第12回 広告、罰則、医療職者の身分法、業務法</p> <p>第13回 医療法、社会福祉関係法規、個人情報保護法</p> <p>第14回 これまでのまとめ、柔道整復師に関わる法律、医療法の重要ポイント</p> <p>第15回 終講特別講義、『接骨院の開業と経営戦略』</p> <p>第16回 評価（到達度の確認）</p>		
テキスト	学校協会、関係法規、柔道整復師と機能訓練指導		
参考図書・文献	医療六法(中央法規出版)、介護支援専門員実務研修テキスト(社会福祉研修書)、ほか		
成績評価の基準	単元小テスト3回50%、定期試験評価50%		
履修上の注意事項			
備考			

授業科目名	関係法規2	単位数	1
講師名	田中雅博	配当学年	3年後期
オフィス・場所	講義終了後、職員室にて	授業形態	講義、演習
講義目的・到達目標	<p><講義目的> 実際に開業するシーンを想定し、開業までの周辺法規の整理、開業に関わる柔道整復師法上の法規を確認するとともに、その運営上の課題、問題点を理解しておく。柔道整復師を基礎資格にする、運動器リハビリテーションセラピストや機能訓練指導員などの業務、法規を理解する。</p> <p><到達目標> 開業準備から開業、実際の運営を仮想する。医療介護の領域で活動する際の関係法を理解しておく。</p>		
講義内容・授業計画	<p><講義内容> 法規1で修得した内容を発展させるため、関係法令の講義とグループワーク、個人ワークの演習を行う。</p> <p>第1回 類似した名称で事業を行う業種についての課題と問題点</p> <p>第2回 接骨院を開業するまでの規則上の手続き、法令順守の重要性、演習、</p> <p>第4回 開設者と管理柔道整復師が同一でないケースの課題と運営上の問題点、トラブルのケース</p> <p>第5回 社会保障制度と社会扶助、相互扶助の意味、現在の社会保障制度の課題、問題点</p> <p>第6回 国民皆保険制度の歴史、健康保険。各種保険取扱いの権利と意義、演習</p> <p>第7回 柔道整復療養費、受療委任払い制度の歴史と請求権解放</p> <p>第8回 公的社団法人以外の柔道整復師療養費請求団体の存在と活動、それらの代理収益事業</p> <p>第9回 医師と柔道整復師の連携、骨折脱臼の同意について</p> <p>第10回 今後の社会保障制度の存続、柔道整復師が法規則の中で行える活動について、演習</p> <p>第11回 介護保険制度の中で行える柔道整復師の活動</p> <p>第12回 介護支援専門員としての柔道整復師</p> <p>第13回 運動器リハビリテーションセラピスト資格を取得した柔道整復師の活動、関係法令</p> <p>第14回 通所介護施設開設に関わる介護保険法の法令と基準</p> <p>第15回 接骨院と通所介護事業所を併設する場合の法令順守、関係法規の確認</p> <p>第16回 評価（到達度の確認）</p>		
テキスト	学校協会、関係法規、柔道整復師と機能訓練指導		
参考図書・文献	医療六法(中央法規出版)、介護支援専門員実務研修テキスト(社会福祉研修書)、ほか		
成績評価の基準	演習ディスカッション(25%)、演習発表準備(25%)、プレゼン(25%)、質問などの授業貢献度(25%)		
履修上の注意事項	授業以外にグループで小規模演習開催の努力を期待する		
備考			

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	社会保障制度論		講師名	田中 雅博	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	社会的扶助の観点から、医療、年金、介護などの社会保障の構造を知り、課題を考え、社会保障の全体像を理解する				
到達目標	医療保険や介護保険の実態を知り、保険給付の正しい処理や手続きが実践できる。				
回数	講義計画				
第1回	社会保障の概論と全体構造				
第2回	公的年金制度の導入の歴史、課題と問題点				
第3回	介護保険の意義と仕組み				
第4回	社会福祉、公的扶助、公衆衛生の意義と仕組み				
第5回	医療保険制度概論				
第6回	国民医療費の推移と現状、これからの課題				
第7回	医療保険財政の現状と課題				
第8回	ケーススタディー				
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
第16回					
テキスト	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理／医歯薬出版株式会社				
参考文献					
評価基準	筆記試験(50点)、授業貢献度(20点)、プレゼンテーション(30点)				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復診察学 I <基礎>		講師名	中西 正	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復師に必要な診察技術である、問診、視診、触診、各種検査法や医療面接方法を学び、技術を習得する。				
到達目標	施術の流れを理解し、臨床の現場においても実践できる知識。技術を身につける。				
回数	講義計画				
第1回	施術(診察)の流れ				
第2回	身体評価の流れ				
第3回	患者の姿勢、歩行、全身状態の観察				
第4回	問診				
第5回	患部の観察				
第6回	触診				
第7回	機能的診察				
第8回	説明と同意				
第9回	整復・固定状態の確認				
第10回	医科との連携				
第11回	ケーススタディ(肩部)				
第12回	ケーススタディ(肘部)				
第13回	ケーススタディ(膝部)				
第14回	ケーススタディ(足部)				
第15回	総復習まとめ				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復学 理論編・実技編(南江堂)、一般臨床医学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意	常に実際の患者を目の前にしていることを意識し、真摯に取り組むこと				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復診察学Ⅱ<高等>		講師名 実務経験	中西 正	
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復師の業務において必要な診察技術を身につける。画像診断等、より臨床に則した診察技術を学ぶことを目的とする。				
到達目標	診察において必要な各項目の知識・技術、特に画像の読影を習得する。				
回数	講義計画				
第1回	診察概論				
第2回	医療面接(実際のケースを想定して)				
第3回	問診実技(実際のケースを想定して)				
第4回	視診 視診の意義、体格、体型、体位・姿勢				
第5回	栄養状態、精神状態、異常運動				
第6回	歩行の観察				
第7回	皮膚の状態、頭部・顔面・頸部・胸部				
第8回	画像診断概論				
第9回	レントゲン概論				
第10回	レントゲン(ケーススタディ)				
第11回	MRI概論				
第12回	MRI(ケーススタディ)				
第13回	エコー概論				
第14回	エコー(ケーススタディ)				
第15回	総復習				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	毎時限、配布されるプリント				
参考文献	一般臨床医学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
評価基準	筆記試験、授業貢献度				
履修上の注意					
備考					

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	3 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床演習VI			講師名	立山 直	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復師の施術を求めて訪れる患者には、非外傷性の疾患も含まれている。これらを適切に除外するだけでなく、外傷でも柔道整復術では対応しきれないものを除外しなければならない。本科目の目的は柔道整復術の適応で得た知識を活用し臨床所見から判断して施術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身に付け、また、安全に柔道整復術を提供するため、医用画像をりかいることである。					
到達目標	1. 柔道整復術で対応できる疾患およびできない疾患を判断することができる。 2. レントゲン、CT、MRI、超音波画像装置、および核医学検査の基本的な仕組みが理解できる。 3. レントゲン、CT、MRI、超音波画像装置、および核医学検査の正常画像の基本が理解できる。					
回数	講義計画					
第1回	柔道整復術の適否を考える					
第2回	損傷に類似した症状を示す疾患① 小テスト1					
第3回	損傷に類似した症状を示す疾患②					
第4回	血流障害を伴う損傷／末梢神経損傷を伴う損傷① 小テスト2					
第5回	血流障害を伴う損傷／末梢神経損傷を伴う損傷②					
第6回	脱臼骨折／外出血を伴う損傷 小テスト3					
第7回	病的骨折および脱臼／意識障害を伴う損傷 小テスト4					
第8回	脊髄症状のある損傷／呼吸運動障害を伴う損傷 小テスト5					
第9回	内臓損傷の合併が疑われる損傷／高エネルギー外傷 小テスト6					
第10回	医用画像の理解(X線の概要／主要な部位の一般撮影法①)小テスト7					
第11回	医用画像の理解(X線の概要／主要な部位の一般撮影法②)					
第12回	医用画像の理解(X線CTの概要／磁気共鳴検査の概要①) 小テスト8					
第13回	医用画像の理解(X線CTの概要／磁気共鳴検査の概要②)					
第14回	医用画像の理解(超音波画像装置の特徴／核医学検査の概要) 小テスト9					
第15回	前回講義までのまとめ 小テスト10					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 施術の適応と医用画像の理解(南江堂)					
参考文献	特になし					
評価基準	評価試験70%、小テスト30%					
履修上の注意	積極的に講義に参加することで理解が深まります。講義に関する発言や質問等はどんどん参加してください。ただし、携帯電話の操作や、私語など他の学生の迷惑になる行為は禁止します。携帯電話は机上にださないこと。					
備考						

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅶ			講師名	立山 直	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義・演習	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復師の施術を求めて訪れる患者には、非外傷性の疾患も含まれている。これらを適切に除外するだけでなく、外傷でも柔道整復術では対応しきれないものを除外しなければならない。本科目の目的は柔道整復術の適応で得た知識を活用し臨床所見から判断して施術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身に着け、また、安全に柔道整復術を提供するため、医用画像をりかひすることである。					
到達目標	1. 柔道整復術で対応できる疾患およびできない疾患を判断することができる 2. レントゲン、CT、MRI、超音波画像装置の正常像が理解できる。 3. 超音波画像装置における基本的な操作法を実施できる。					
回数	講義計画					
第1回	上肢の画像解剖①					
第2回	上肢の画像解剖②					
第3回	下肢の画像解剖①					
第4回	下肢の画像解剖②					
第5回	脊柱の画像解剖①					
第6回	脊柱の画像解剖②					
第7回	第1回～第6回まとめ／確認テスト					
第8回	超音波画像診断装置の基本的操作					
第9回	超音波画像診断装置による上肢の描出方法①					
第10回	超音波画像診断装置による上肢の描出方法②					
第11回	超音波画像診断装置による上肢の描出方法③					
第12回	超音波画像診断装置による下肢の描出方法①					
第13回	超音波画像診断装置による下肢の描出方法②					
第14回	超音波画像診断装置による下肢の描出方法③					
第15回	第1回～第14回までのまとめ					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	施術の適応と医用画像の理解／南江堂					
参考文献	特になし					
評価基準	評価試験60%、確認テスト40%					
履修上の注意	積極的に講義に参加することで理解が深まります。講義に関する発言や質問等はどんどん参加してください。ただし、携帯電話の操作や、私語など他の学生の迷惑になる行為は禁止します。携帯電話は机上にださないこと。					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅷ		講師名	青木 孝至	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義・演習	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復の業務範囲と鑑別診断が必要な疾患の病態、症状を理解し適切な判断および処置ができる。				
到達目標	柔道整復領域と鑑別が必要な内科領域の知識を習得し、柔道整復領域に活かす。				
回数	講義計画				
第1回	神経疾患(総論)				
第2回	神経疾患(脳血管障害)				
第3回	神経疾患(腫瘍性疾患・感染性疾患・機能的疾患)				
第4回	神経疾患(神経変性疾患・炎症性疾患・神経免疫疾患)				
第5回	神経疾患(筋疾患・まとめ)				
第6回	循環器疾患(うっ血性心不全・虚血性心疾患・心臓弁膜症)				
第7回	循環器疾患(先天性心疾患・高血圧症・動脈疾患・末梢動脈疾患・不整脈)				
第8回	膠原病(総論)				
第9回	リウマチ				
第10回	SLE				
第11回	強皮症・多発性筋炎・シェーグレン症候群				
第12回	ベーチェット病・結節性多発動脈炎・リウマチ性多発筋痛症				
第13回	熱中症				
第14回	腎不全・糸球体疾患				
第15回	尿路感染症				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	一般臨床医学改訂第3版(医歯薬出版株式会社)、柔道整復理論編改訂第6版(南江堂)				
参考文献	授業配布プリント				
評価基準	評価試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅸ		講師名	榎木 英介	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復の業務範囲と鑑別診断が必要な疾患の病態、症状を理解し適切な判断および処置ができる。				
到達目標	柔道整復領域と鑑別が必要な内科領域の知識を習得し、柔道整復領域に活かす。				
回数	講義計画				
第1回	代謝疾患(糖尿病)				
第2回	代謝疾患(肥満症)				
第3回	代謝疾患(メタボリックシンドローム)				
第4回	代謝疾患(痛風)				
第5回	内分泌疾患(総論)				
第6回	内分泌疾患(下垂体疾患、甲状腺疾患)				
第7回	内分泌疾患(副甲状腺疾患、副腎皮質疾患)				
第8回	内分泌疾患(褐色細胞腫・性腺疾患)				
第9回	呼吸器疾患(気管支炎、肺炎)				
第10回	呼吸器疾患(肺結核、COPD)				
第11回	呼吸器疾患(肺癌)				
第12回	感染症(総論)				
第13回	感染症(整形外科的感染症)				
第14回	関節痛				
第15回	まとめ				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	一般臨床医学改訂第3版(医歯薬出版株式会社)、柔道整復理論編改訂第6版(南江堂)				
参考文献	授業配布プリント				
評価基準	評価試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	応用柔道整復概論 I (臨床リハ)		講師名	池尾 忠思	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復師として必要なリハビリテーションの知識と技術を身につける。				
到達目標	高齢者を含めたあらゆる年齢層に対応することのできる臨床家を育成する。				
回数	講義計画				
第1回	リハビリテーションの治療 (関節の動かし方、筋緊張の見方等)				
第2回					
第3回					
第4回					
第5回	整形外科的疾患に対するリハビリテーション				
第6回					
第7回					
第8回					
第9回					
第10回	脳卒中片麻痺患者に対するリハビリテーション				
第11回					
第12回					
第13回					
第14回	高齢者に対するリハビリテーション				
第15回					
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	適宜プリント配布				
参考文献					
評価基準	レポート提出				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	応用柔道整復概論Ⅱ			講師名	青木 孝至	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	各関節の解剖を深く理解し、筋や靭帯による運動制御や運動療法を学ぶ					
到達目標	人体の構造を深く理解し、運動療法を安全に実践することができる					
回数	講義計画					
第1回	解剖学の応用と運動療法(肩関節)					
第2回	解剖学の応用と運動療法(肩関節)					
第3回	解剖学の応用と運動療法(肩関節)					
第4回	解剖学の応用と運動療法(肘関節)					
第5回	解剖学の応用と運動療法(肘関節)					
第6回	解剖学の応用と運動療法(肘関節)					
第7回	解剖学の応用と運動療法(手関節)					
第8回	解剖学の応用と運動療法(手関節)					
第9回	解剖学の応用と運動療法(手関節)					
第10回	解剖学の応用と運動療法(指節関節)					
第11回	解剖学の応用と運動療法(指節関節)					
第12回	解剖学の応用と運動療法(体幹)					
第13回	解剖学の応用と運動療法(体幹)					
第14回	復習					
第15回	復習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	授業時にプリントを配布					
参考文献	解剖からアプローチするからだの機能と運動療法(上肢・体幹) MEDICALVIEW					
評価基準						
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	応用柔道整復概論Ⅲ			講師名	池尾 忠思	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	各関節の解剖を深く理解し、筋や靭帯による運動制御や運動療法を学ぶ					
到達目標	人体の構造を深く理解し、運動療法を安全に実践することができる					
回数	講義計画					
第1回	解剖学の応用と運動療法(股関節)					
第2回	解剖学の応用と運動療法(股関節)					
第3回	解剖学の応用と運動療法(股関節)					
第4回	解剖学の応用と運動療法(膝関節)					
第5回	解剖学の応用と運動療法(膝関節)					
第6回	解剖学の応用と運動療法(膝関節)					
第7回	解剖学の応用と運動療法(膝関節)					
第8回	解剖学の応用と運動療法(足関節)					
第9回	解剖学の応用と運動療法(足関節)					
第10回	解剖学の応用と運動療法(足関節)					
第11回	解剖学の応用と運動療法(足関節)					
第12回	解剖学の応用と運動療法(体幹・腰部)					
第13回	解剖学の応用と運動療法(体幹・腰部)					
第14回	解剖学の応用と運動療法(体幹・腰部)					
第15回	総復習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	授業時にプリントを配布					
参考文献	解剖からアプローチするからだの機能と運動療法(下肢・骨盤) MEDICALVIEW					
評価基準						
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	応用柔道整復概論 V		講師名	福田 学		
			実務経験			
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	担当教員の指導のもと、応用柔道整復概論IVで決めたテーマ及びスケジュールをもとに、卒業論文を作成し、発表する。					
到達目標	卒業論文を書き上げ、学術大会の運営及び発表を行う。					
回数	講義計画					
第1回	卒業論文の作成					
第2回	卒業論文の作成					
第3回	卒業論文の作成					
第4回	卒業論文の作成					
第5回	卒業論文の作成					
第6回	卒業論文の作成					
第7回	卒業論文の作成					
第8回	卒業論文の作成					
第9回	卒業論文の作成					
第10回	卒業論文の作成					
第11回	卒業論文の作成					
第12回	学術大会運営準備					
第13回	学術大会運営準備					
第14回	発表指導					
第15回	卒業論文発表					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	教務課作成資料					
参考文献						
評価基準	卒業論文及び発表での評価					
履修上の注意	期限内の提出					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	包帯固定学Ⅲ			講師名	辻井 宏昭	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期		分野	専門分野	
講義目的	巻軸包帯・伸縮包帯やテーピングなどの固定材料を用いて、臨床的固定法を学ぶ。					
到達目標	怪我を想定し、症状・程度に応じた固定法(包帯やテーピング等)を選別・実践できるようになる。					
回数	講義計画					
第1回	固定法を実施する際の間診・触診・視診の注意点①					
第2回	固定法を実施する際の間診・触診・視診の注意点②					
第3回	合わせ包帯を用いたミッテルドルフ包帯固定法の実践①(上腕骨骨幹部骨折など)					
第4回	合わせ包帯を用いたミッテルドルフ包帯固定法の実践②(上腕骨骨幹部骨折など)					
第5回	合わせ包帯を用いたミッテルドルフ包帯固定法の実践③(上腕骨骨幹部骨折など)					
第6回	キャストライトを用いたギプス固定の実践①(上腕骨外科頸骨折など)					
第7回	キャストライトを用いたギプス固定の実践②(上腕骨外科頸骨折など)					
第8回	キャストライトを用いたギプス固定の実践③(上腕骨外科頸骨折など)					
第9回	クラーメル副子を用いた膝関節部の固定①(膝前十字靭帯損傷)					
第10回	クラーメル副子を用いた膝関節部の固定②(膝半月板損傷、テーピング固定含む)					
第11回	クラーメル副子を用いた足関節部の固定①(外側靭帯損傷)					
第12回	クラーメル副子を用いた足関節部の固定②(外側靭帯損傷、包帯とテーピング両方固定)					
第13回	アルフェンスを用いた手部、指部の固定①(母指CM関節)					
第14回	アルフェンスを用いた手部、指部の固定②(マレットフィンガーなど)					
第15回	実技復習・まとめ					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	配布資料					
参考文献	包帯固定学改訂第2版(南江堂)					
評価基準	実技評価試験実施					
履修上の注意	出席率4/5以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅳ			講師名	西 正人	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	財団実技審査項目にない上肢・下肢の骨折、脱臼の整復実技や固定実技を行う。					
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように育てる。					
回数	講義計画					
第1回	顎関節脱臼の診察及び整復法					
第2回	顎関節脱臼の固定法					
第3回	上腕骨顆上骨折の診察及び整復法					
第4回	上腕骨顆上骨折の固定法					
第5回	肘頭骨折の診察及び整復法					
第6回	肘頭骨折の固定法					
第7回	橈・尺両骨骨幹部骨折の診察及び整復法					
第8回	橈・尺両骨骨幹部骨折の固定法					
第9回	第1指MP関節脱臼の診察及び整復法					
第10回	第1指MP関節脱臼の固定法					
第11回	マレットフィンガーの診察及び整復法					
第12回	マレットフィンガーの固定法					
第13回	中足骨骨折の診察及び整復法					
第14回	中足骨骨折の固定法					
第15回	膝蓋骨脱臼の診察及び整復法					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編					
参考文献						
評価基準	評価実技試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復基礎実習 V			講師名	西 正人	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	上肢の骨折・脱臼の理論を復習しながら、骨折や脱臼の整復実技や固定実技を行う。					
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように育てる。					
回数	講義計画					
第1回	鎖骨骨折の診察及び整復法					
第2回	鎖骨骨折の固定法					
第3回	肩鎖関節脱臼の診察及び整復法					
第4回	肩鎖関節上方脱臼の固定法					
第5回	肩関節脱臼の診察及び整復法					
第6回	肩関節前方脱臼の固定法					
第7回	上腕骨外科頸骨折の診察及び整復法					
第8回	上腕骨骨幹部骨折の固定法					
第9回	肘関節脱臼の診察及び整復法					
第10回	肘関節後方脱臼の固定法					
第11回	コーレス骨折の診察及び整復法					
第12回	コーレス骨折の固定法					
第13回	肘内障の診察及び整復法					
第14回	第5指中手骨頸部骨折の固定法					
第15回	第2指PIP関節背側脱臼の固定法					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編					
参考文献						
評価基準	評価実技試験					
履修上の注意	出席率4/5以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅵ			講師名	青木 孝至	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	上肢、下肢の軟部組織損傷の理論を復習しながら、検査法や固定実技を行う。					
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように学生を育てる。					
回数	講義計画					
第1回	肋骨骨折の固定法					
第2回	下腿骨骨幹部骨折の固定法					
第3回	肩腱板損傷の診察及び検査法					
第4回	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査法					
第5回	ハムストリングス損傷(肉ばなれ)の診察及び検査法					
第6回	大腿四頭筋打撲の診察及び検査法					
第7回	膝関節側副靭帯損傷の診察及び検査法					
第8回	膝関節内側側副靭帯損傷(Xサポートテープ固定)の固定法					
第9回	膝関節十字靭帯損傷の診察及び検査法					
第10回	膝関節半月板損傷の診察及び検査法					
第11回	下腿三頭筋損傷(肉ばなれ)の診察及び検査法					
第12回	アキレス腱断裂の固定法					
第13回	足関節外側靭帯損傷の診察及び検査法					
第14回	足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)の固定法					
第15回	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定)の固定法					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編					
参考文献						
評価基準	評価実技試験					
履修上の注意	出席率4/5以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅷ			講師名	青木 孝至	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実習	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	骨折・脱臼における整復術・固定術の機能的な知識と技術の向上と、後療時の構成運動についての理解と術。					
到達目標	成り立ち・意味・使用材料など基礎となるすべてを知ることができ、深く理解し会得する。					
回数	講義計画					
第1回	運動科学における関節内運動学 I					
第2回	運動科学における関節内運動学 II					
第3回	関節の種類・構造・機能 I					
第4回	関節の種類・構造・機能 II					
第5回	関節の種類・構造・機能 III					
第6回	上肢(機能的整復・固定) 実技					
第7回	上肢(機能的整復・固定) 実技					
第8回	上肢(機能的後療) 実技					
第9回	体幹(機能的整復・固定) 実技					
第10回	体幹(機能的整復・固定) 実技					
第11回	体幹(機能的後療) 実技					
第12回	下肢(機能的整復・固定) 実技					
第13回	下肢(機能的整復・固定) 実技					
第14回	下肢(機能的後療) 実技					
第15回	総合復習 実技					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編					
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)					
評価基準	評価試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復総合演習Ⅱ		講師名	青木 孝至	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期		分野	専門分野
講義目的	高齢者特有の疾病や症状、認知症の理解など高齢者介護に必要な知識を身につけ、新しい知識をベースに本来の柔道整復師の技術に適用する				
到達目標	機能訓練指導員として、介護福祉の現場において、介護予防や自立支援にかかわることができる知識を身につける				
回数	講義計画				
第1回	柔道整復師と介護保険				
第2回	発達と老化の理解				
第3回	発達と老化の理解				
第4回	認知症の理解				
第5回	認知症の理解				
第6回	介護保険制度				
第7回	介護保険制度				
第8回	介護の過程				
第9回	高齢者介護とICF／介護予防と生活機能の向上				
第10回	介護予防・日常生活支援総合事業／ロコモティブシンドローム				
第11回	高齢者自立支援の理解				
第12回	高齢者自立支援の理解				
第13回	機能訓練指導員と機能訓練				
第14回	機能訓練指導員と機能訓練				
第15回	機能訓練で提供する運動と要点				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復師と機能訓練 機能訓練指導員養成テキスト (南江堂)				
参考文献					
評価基準	評価試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復実技研究 I		講師名 実務経験	桃井 俊明	
実務内容					
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	身体の構造から考えて理論を理解することによって、患者さんを診る時に鑑別を行い、確定診断が行えるような医療人を目指し、臨床の場において対応できる力を養う。				
到達目標	実際にどのように診察、鑑別していくか、各種触診法、検査法を実施できるようにする。				
回数	講義計画				
第1回	感覚検査(表在感覚)				
第2回	感覚検査(深部感覚、複合感覚、平衡覚)				
第3回	反射検査(表在反射)				
第4回	反射検査(腱反射)				
第5回	頸部 整形外科テスト(ジャクソン、スパーリング)				
第6回	腰部 整形外科テスト(ケンプ、SLR、FNS、ブラガードテスト)				
第7回	骨盤・股関節部 整形外科テスト(ニュートン、パトリックテスト)				
第8回	胸郭部 整形外科テスト(アドソン、ライト、モーリー、アレン、エデン、ルーステスト)				
第9回	腹部 検査法(マックバーネ、ムンロー、ランツ、ボアスほか)				
第10回	模擬症例診察(頸部)				
第11回	模擬症例診察(腹部)				
第12回	模擬症例診察(腹部・腰部)				
第13回	模擬症例診察(胸部)				
第14回	模擬症例診察(大腿部)				
第15回	模擬症例診察(下腿部)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復学実技編(南江堂)、一般臨床医学改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献	配布資料				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復実技研究Ⅱ		講師名 実務経験	竹内 希美子	
実務内容					
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	臨床の場においてよく遭遇する好発疾患や頻出症例の原因や症状・治療法・後療法などを理論から検査法(テスト法)、また鑑別疾患との問診や症状確認を行う。				
到達目標	身体の構造から考えて理論を理解することによって、患者さんを診る時に鑑別を行い確定診断がおこなえるような医療人を目指し、臨床の場において対応できる力を養う。				
回数	講義計画				
第1回	頸椎疾患(寝違え)				
第2回	頸椎疾患(むちうち損傷)				
第3回	頸椎疾患(外傷性腕神経損傷)				
第4回	頸椎疾患(変形性頸椎症)				
第5回	頸椎疾患(頸椎後縦靭帯骨化症)				
第6回	手関節部の疾患				
第7回	指・手指部の疾患				
第8回	肩関節部の疾患1				
第9回	肩関節部の疾患2				
第10回	肘関節部の疾患				
第11回	股関節部の疾患				
第12回	膝関節部の疾患1				
第13回	膝関節部の疾患2				
第14回	下肢部の浮腫				
第15回	下肢部の疾患				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復学理論編・実技編(南江堂)、整形外科学				
参考文献	随時、資料を配布				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復実技研究Ⅲ		講師名 実務経験	山根 裕介	
実務内容					
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復師の行う業務のなかでも、特に後療法の実技修得を目的とする。				
到達目標	後療法において必要な知識や技術を習得し、自ら実践のみならず他者への指導ができる。				
回数	講義計画				
第1回	後療法概論(固定)				
第2回	後療法概論(物理療法)				
第3回	後療法概論(手技療法)				
第4回	後療法概論(運動療法)				
第5回	後療法実技(手技療法)				
第6回	後療法実技(上肢の運動療法)				
第7回	後療法実技(体幹の運動療法)				
第8回	後療法実技(下肢の運動療法)				
第9回	後療法実技(物理療法機器の取り扱い)				
第10回	コアコンディショニング概論				
第11回	コアコンディショニング実技				
第12回	後療法におけるストレッチ概論				
第13回	後療法におけるストレッチ実技				
第14回	ストレッチポール概論				
第15回	ストレッチポール実技				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復学理論編・実技編(南江堂)				
参考文献	その都度、プリントを配布				
評価基準	実技試験				
履修上の注意					
備考					